

## 非弁膜症性心房細動を合併する冠動脈インターベンション施行

### 患者の経口抗凝固薬と抗血小板薬の至適併用療法

#### ：多施設、前向き、無作為化比較試験

心房細動と診断された患者さんが、虚血性心疾患を同時に患い、ステント治療を受けることも多く、ステント治療に伴う2種類の抗血小板薬に加えて、心房細動に伴う抗凝固薬の1剤の計3種類の薬を飲む治療が行われていました。それぞれの薬を飲む期間が長いと、血栓症の発生する確率が減少しますが、出血による合併症は増大し、薬を飲む期間を減らすと出血による合併症は減少しますが、血栓症を発生する確率は増加してしまいます。しかしながら、最近の新しいステントを使用した臨床研究では、血栓症の発生する割合が軽減されてきており、また投薬期間も1ヵ月で抗血小板薬1剤に減らすことの安全性が示され始めています。この研究の目的は、弁膜症ではない、心房細動を有する患者さんの中で、薬剤を表面に塗ったステント治療後に、抗血小板薬と抗凝固薬の投与期間を短くした場合の治療法が有効であるか、また安全であるかどうかを確認することです。

本研究は国が定めた「臨床研究に関する倫理指針」を遵守し、当院での臨床研究倫理委員会（臨床研究の実施または継続に、倫理的観点及び科学的観点から、及び審議する委員会）においてその科学性・倫理性について厳重に審査され、病院長の承認を受けて実施されます。